

幼児理解

幼児理解と保育記録のとり方 幼児理解と特別支援教育

(研修俯瞰図 D分野)

主題設定の理由

幼稚園では、幼児は個としてのあそびや生活から始まり、次第にお互いの特性をいかして力を合わせたり、分担したり、知恵を出し合ったり、工夫し合ったりする集団での協同的なあそびや生活へと発展させながらいろいろなことを感じたり学んだりしている。

幼児理解を深めるには、保育者は幼児のこれまでの育ちの背景や園生活における個と集団の場における姿をとらえ、幼児が自発的に活動できるように一人一人の発達段階を考慮しながら見通しを立てて支援していくことが大切である。そのためには、一人一人の幼児の行動(活動)の意味を理解し、その子どものよさをとらえながら、保育者間はもちろんのこと、家庭と連携を取り合いながら支援していくことが不可欠である。このような園環境下で、幼児は人とかかわることの楽しさや生きる喜びを味わい、人とかかわる力を身に付けていく。

以上のようなことから、保育者が幼児理解を深めるためには日々の保育記録をもとに自らの保育を振り返り、他の保育者との情報交換を密にしながら、保育計画、実践、評価(検証)、共通理解の過程を繰り返し、一人一人の幼児の育ち(変化)を流動的かつ多面的に考察することが重要となってくる。

また、すべての幼児に支援が必要であるが、とくに特別な支援が必要な幼児(発達障がい児など)については、一人一人の幼児のニーズをより詳細に理解して支援していくことが求められる。そのためには、保護者との連携がより強く求められるばかりでなく、外部の療育関係の機関との情報交流や連携が不可欠である。また年長児においては、近隣の小学校や養護学校との連携も大切である。そして、このような情報交流や連携が有意義に機能して、幼児の教育的支援が実り多いものになるには、一人一人の幼児について個別の教育支援計画や個別の指導計画を丁寧に記載しておくことが必要であり、このことが義務付けられてきている。

そこで、幼稚園での幼児理解を深めるための実践研究を進めることにより、幼児教育の質の向上を図りたいと考える。

【研究の手がかり】

幼児理解を深めるためにはどのような方法があるかについて話し合う。

保育を振り返り、より良い幼児理解のための保育記録の在り方を考え、実践する。

保育記録をもとに、保育者間で事例研究等を行い、幼児理解を深める。

特別な支援が必要な幼児について、外部機関との連携を活かしながら個別の教育支援計画や個別の指導計画を充実させ、具体的な事例をもとに指導や支援について話し合う。

特別な支援が必要な幼児がいるクラスにおいて、お互いが育ち合うための保育者の配慮、環境構成、クラス作り、かかわり合いなどを研究する。

特別な支援が必要な幼児の保護者とのコミュニケーションやカウンセリングマインドの在り方、他の保護者への配慮や理解の促進などについて話し合う。

(分科会等テーマ群)

幼児理解と保育記録のとり方

保育記録を活かしながら、幼児一人一人の成長を見守る

保育記録と保育評価の課題

個人記録と集団の記録の在り方

幼児理解と特別支援教育

気になる子や障がい児の保育

障がいのある子どもと保育者や子どもたちのかかわり

特別支援における保護者とのかかわりと連携

特別支援における関係機関との連携と個別の支援計画

各地区独自の課題